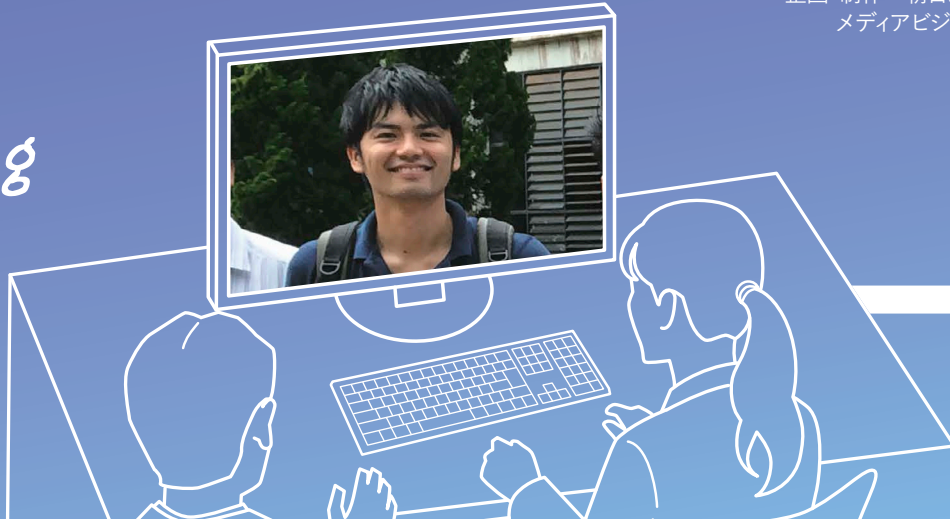


One time, One meeting

一期一会。未来も過去も、
すべては現在の出会いに通じている。
その“出会い”から始まるストーリーを、
ミャンマーに駐在し日々の業務や
地域のために奮闘する三菱商事社員の
中村綾太さんお届けします。



From
三菱商事
ヤンゴン駐在事務所
中村綾太

出家してもらった言葉は、 「君はもう、ミャンマーの人」

【監修】 The Asahi Shimbun
GLOBE+

こんにちは。門出の季節の春は、新生活を知らない土地で始めた人も多いのではないのでしょうか。私がここミャンマーに初めて来たのは2013年。当時は社内のミャンマー語学研修生として赴任したものの、不安もいっぱいでした。

しかし実際に生活してみると、移り住んだヤンゴンはいろいろな顔を持つ魅力的な街で、地元の人是非常に親切。タクシーの車内に忘れた傘を、運転手さんがレストランまで届けてくれたこともありました。そんな暮らしの中で、もっとこの国を知りたいと体験したのが「出家」です。

ミャンマーの人のほとんどは上座部仏教を信仰し、男性は一生に2度出家するといわれています。私も剃髪し袈裟を纏って、12日間寺院に入りました。頭はカ



ミソリ負けでヒリヒリしましたが、自分の姿を鏡で見たときは「僧になったんだ」と実感したものです。修行は1日のほとんどを瞑想で過ごし、1時間ほど街へ托鉢に出かけます。道沿いにはわざわざ車であつてお布施をする人もいて、信仰が彼らの価値観の根源であると感じました。砂利道を慣れない裸足で歩くのは痛くて、



まいりましたが、本当に尊い経験でした。修行を終えた後は、ミャンマー人をより深く理解できるようになったと思います。知人に「君はもう、ミャンマーの人だね」といってもらえたことも、出家をしてうれしかったことの一つです。

ミャンマーで学んだことは、会った相手にとって私は、時に日本を代表する立場だということ。その逆もしかりで、私もミャンマーの人のたくさんの優しさや魅力に触れ、ミャンマーが大好きになりました。これからも一つひとつの出会いを大切に、ミャンマーが豊かな国になれるように貢献していきたいと思っています。



日本語学習者が急増中 「ミャンマー」

民主化の歩みを進めているミャンマー(ミャンマー連邦共和国)。日本語の習得にも関心が高いようで、2015年度は132だった日本語教育機関数が、18年度は400*と3倍以上に増えている。外国語大学や語学教室のみならず、貧しい子どもたちにも教育の機会を与えてきた僧院学校でも教えているところがあるほどだ。

※出典：国際交流基金

「One time, One meeting」の
オリジナル記事は
GLOBE+でご覧頂けます。



<https://globe.asahi.com/brand/mitsubishicorp/2020>